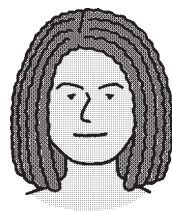


コトバからモノへ、 モノからコトバへ

～Picture Dictionary の使いかた

森口 稔



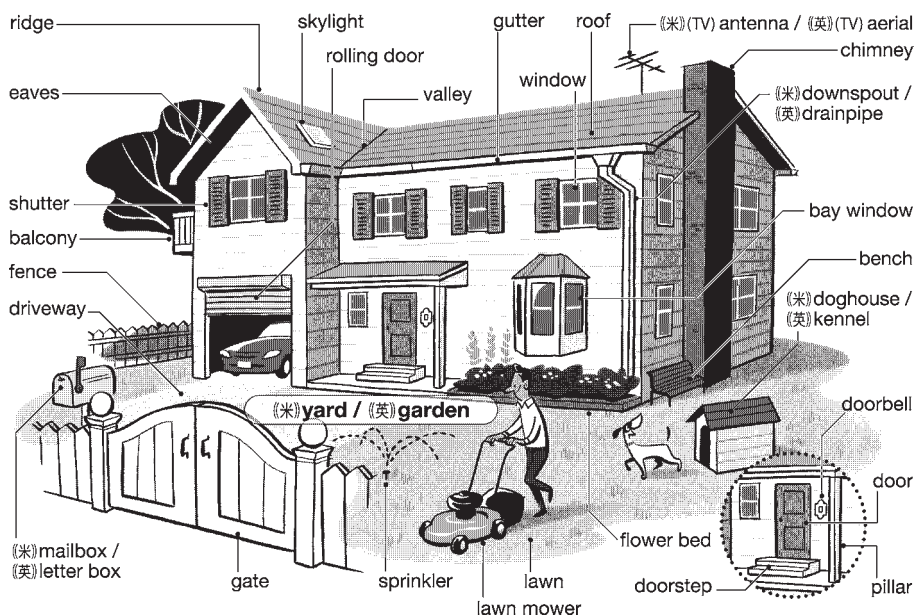
辞書はコトバからコトバを調べるための道具である。しかし、コトバを別のコトバで言いかえる作業には限界がある。そのため、辞書にはさまざまな挿絵や写真が用いられ、電子辞書には動画や音声も入っている。つまり、コトバを理解するためにモノを見る。G 5 で設けられた Picture Dictionary は、挿絵の集合体と言ってもよいだろう。

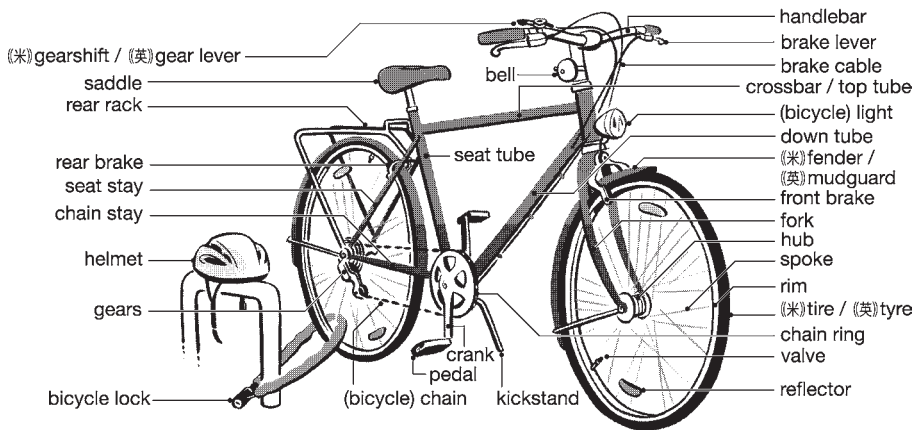
たとえば, bay window. G 4 では「張出し窓」となっているが, 「出窓」という表現に慣れている筆者にはピンとこない。しかし, Picture Dictionary の house の箇所にある絵を見れば即座に理解できる。

同じく, crank. 日本語でも「クランク」と呼ぶが, 「自転車のクランク」と言われてすぐにわ

かる人はかなりの自転車通だろう。Picture Dictionary の bicycle を見ると, 前の歯車とペダルをつなぐ金属部分であることがわかる。

図示することで, より正確な理解を得られることもある。たとえば, hip. 日本語の「ヒップ」は『明鏡国語辞典』によれば, 「尻。また, 尻回り (の寸法)」となっている。たしかに日本語としてはそういう使いかたが普通である。しかし, LDOCE⁶によると, hip は “one of the two parts on each side of your body between the top of your leg and your waist” であり, 「尻」でも「尻回り」でもない。Picture Dictionary で確かめると, hip がいわゆる「尻」ではなく, ズボンのポケットの辺りであることがわかる。





このように、Picture Dictionary には、「コトバ⇒モノ」の使いかたがある一方で、「モノ⇒コトバ」という使いかたもある。前者は英和辞典的、後者は和英辞典的であると言えるだろう。

ある事物を英語でどう呼ぶか知りたいとき、通常は和英辞典を引く。そのためには、まず、その事物の日本語での名称を知らなければならない。しかし、もしそれが日本語で何というかわからない場合、和英辞典ではお手上げとなる。

たとえば、台所で洗った物を置く、カウンターの波打っている部分（この説明でおわかりいただけるだろうか）を英語で何というか。縮らせて細く束ねて、縄のれんのように垂らす、黒人のレゲエ歌手がしているような髪型（前ページ右上参照）を何というか。頭の中にははっきりと画像が浮かんでいるのに、言葉にしようとする、と、もどかしいほどまくいく。Picture Dictionary であれば、それぞれが drainboard と dreadlocks であることが一目瞭然である。

Picture Dictionary には学習上の利点もある。通常の見出し配列はアルファベット順だが、Picture Dictionary は、いわば、概念配列である。スペルに関係なく、身体の部位、教室の備品、図形や色など関連する表現がワンセットで掲載されている。アルファベット順では退屈感を覚える学習者も、楽しみながら覚えられよう。また、

house と geography の両方に ridge という単語が出ている。2 つの ridge を見比べることで ridge の基礎概念の理解に役立つはずである。

モノとコトバをダイレクトに関連付けた Picture Dictionary には、ほかにもいろいろな可能性があるだろう。辞書ユーザーがそれらを見つけて、楽しんでくれることを期待したい。

（もりぐち みのも・長浜バイオ大学非常勤講師）

